

# ご挨拶

会長 池田 幸智

厳しいローラー・スキー大会も無事終え、いよいよ来たるシーズンに期待を寄せ競技、教育部共に各行事計画等にご尽力頂き厚く感謝申し上げます。

羅漢山大会は第1回大会から役員としてレースを見てきましたが、入賞を目指す選手は勿論ですが、私の心に深く残る選手はしんがりで後送車に追われながら懸命にゴールをめざす若者の姿です。ゴールして自分との戦いに勝ったと云う喜びと成績表を見て残念、悔しいと云う複雑な表情は私に熱い感動を与えてくれます。例え負けてもこの選手にとっては人生の貴重な財産になると信じています。

本大会も歴史を重ねて来ましたがこれからも盛大に開催を続けて行かなければならないと思います。私もアメフトを高校から始め9年間この競技に関わりましたが、当時は選手も少なくフル・ゲームに出場は当たり前、ルールも現在のように安全に配慮無く、怪我はつきもの、何処か勲章ぐらいに思われていました。

成績も何時もBクラス、惨敗はつきもの、負けた後のサイン違いを体罰で味わされてきました。でも私にとってこの厳しいスポーツを経験したことは大きな財産と思って大切にしています。鬼に見えた先輩、監督も今は良くぞ鍛えて頂いたと神様・仏様として感謝の気持ちで一杯です。

さて、いよいよ3年後に山口国体が開催されますが、その強化に全力を注がねばなりません、私はその一方底辺の拡大にも全力を注がなければ開催県の意味が無いと云う信念を持っています。

地球温暖化の今日、競技だけでなく雪山の素晴らしさを一人でも多くの人々に知って頂く様、努力しなければならぬ大切なシーズンと思います。

去る9月チャリティ・ゴルフ大会を開催致し50名近い参加を頂きましたが、その半数以上はスキーをしない人でした。沢山の強化費を頂きましたが感謝しながら使わせていただきます。

連盟の役員さんの義務は大変ですが肩書き以上の責務を認識して頂き連盟を支えて頂きたいと思います。

終りにイヤー・ブック・スキーやまぐち発刊にご支援頂いた各位に厚く感謝申し上げます。ご挨拶と致します。